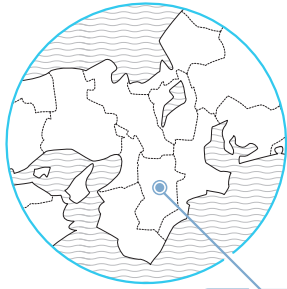


ケアマネジャー発

# 地域づくりのヒントとコツ

vol.9



今回は  
奈良県です

### ケアマネ勉強会の結成

#### 主任ケアマネジャーとしての責任

「主任ケアマネとなったからには、地域のケアマネのスキルアップのための活動を始めたい」。東川信一さんは、主任ケアマネジャーの“同期”松村光子さんとともにその思いを共有していました。そんな時に出会った一冊の本が地域活動の開始へと2人の背中を押すことになりました。その本は足立里江さんが書いた『朝来式 ケアマネジメント支援サクセスガイド』（朝来市ケアマネジャー協会監修、メディカ出版、2017）。主任ケアマネ向けに、地域ぐるみで行うケアマネジメント支援の方法が具体的に書かれています。

東川さんらは、足立さんや朝来市の実践を参考に「ならケアマネ支援ネット」を創設。2017年5月より「奈良流」にアレンジした勉強会を始めました。

対象は、橿原市、明日香村やその周辺地域（奈良県中中和地域）の主任ケアマネ。有志9人で、ケアマネジメントの理論や倫理を学び合い・支え合う、小規模かつ「お金もなく、講師もいない」スタートでした。

## ケアマネが生き生きできれば地域はもっと元気になる

わずか9人の有志で始まった「ならケアマネ支援ネット」は、退会者続出の危機やコロナ禍を乗り越え大きく成長しようとしています。そこには、確固とした思いがありました。

### ◆ 今月のケアマネジャー

#### 東川信一さん

特別養護老人ホームあまがし苑  
居宅介護支援事業所 管理者



主任介護支援専門員。老人病院のリハビリ助手を務めながら介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得。介護保険制度創設時から居宅のケアマネジャーとして勤務し、現職。地域の多職種連携グループやケアマネ有志の勉強会を結成するなど、地域の専門職の連携強化やスキルアップに注力する。ならケアマネ支援ネットHP：<https://naracmnet.nikonikoweb.net/>

### 基礎から積み上げる勉強会

#### さっそく訪れた、退会者出現の危機

勉強会の中心に据えたのは、渡部律子氏が提唱した「気づきの事例検討会」でした。同名の書籍（中央法規、2007）で渡部氏は、「事例検討会を開催するためには、6～12回の事前勉強会が望ましい」としています。東川さんらは、これに従い、3年計画のプログラムを作成しました。

1年目は基礎知識の学習です。渡部律子著『高齢者援助における相談面接の理論と実際 第2版』（医歯薬出版、2011）をテキストに使い、各自で読み込み、発表し合う学習会を重ねていきました。事例を用いた学習では、振り返りを徹底して行いました。

2～3年目は、『気づきの事例検討会 DVD版』（中央法規、2009）を視聴したり、前出の書籍版をテキストに使ったりして、事例検討会の知識と技術を深めていきました。そんな時、その活動に暗雲が……。[基礎学習の繰り返しが多くてしんどい]などの理由で、1年目の終盤に4名ものメンバーが退会したのです。

表 ならケアマネ支援ネット創設から3年間の活動

年度	「気づきの事例検討会」を中心とした勉強会	その他の研修会	会員数
2017	テキストを使った基礎学習、事例の振り返り	多職種参加型「見える事例検討会」約68名参加	9
2018	気づきの事例検討会 質問トレーニング、DVDによる研修	ゲストを招いての研修	14
2019	気づきの事例検討会の実施、自己覚知、基本的知識およびスキル	「アローチャート勉強会」約64名参加、ゲストを招いての研修（複数回）	30

### 対象者を広げる

#### ブレずにスキルアップ

退会者が出たことで、会の存続が危ぶまれました。しかし、東川さんら残ったメンバーは、基礎研修を重ねることで確実に力がつくことを確信していました。そして、ブレずに活動を継続する道を選んだのです。すると次第に、主任ケアマネ以外のケアマネジャーたちからも、「もっと実力を高めたい」「勉強する場を探している」などの声が届き、支援ネットの対象を主任ケアマネに限定せず、「やる気のあるケアマネ」に拡大することにし、勉強会を継続していきました。

また、当初より会員限定の企画以外にも、「見える事例検討会」（2017年度）、「アローチャート勉強会」（2019年度）などを実施し、専門知識を身につけることでスキルアップを図りました（表）。

### コロナ禍でギアチェンジ

#### Zoom研修会の開催

こうした取り組みにより、徐々に会員数の増えた支援ネットでは、活動の充実を目指そうと、2020年度には、朝来市ケアマネジャー協会のメンバーを呼び、「合同事例検討会」や「アローチャート学習会」などを企画しました。ところがコロナ禍に見舞われ、すべての活動を一旦休止を余儀なくさせられたのです。

しかし、オンライン研修を求める声が強くなると、それに応えるべくZoom会議の開き方を練習するためにZoom茶話会や飲み会などを開いたのちに、研修会

を月1回のペースで開催していきました。

医師、保健師、看護師、理学療法士、薬剤師、訪問栄養士などが代わる代わるゲスト参加し「新しい生活様式でのケアマネのあり方」「コロナ禍での連携」「看取りを支えるケアマネの役割」など、多彩なテーマで研修会を実施。また、「気づきの事例検討会」の研修もZoomで行いました。

### オンラインの長所と短所

#### ハイブリッド方式の模索

Zoom研修では、他県からの参加もありました。また、著名な講師も比較的招請しやすく、テーマにも広がりをもたせることができました。

一方で、研修は業務時間外に行うため、「一度家に帰ると家事等で研修に参加しづらい」などの声もあり、集合研修が求められていることもわかりました。

2021年度は、当面はZoom研修で会員限定の勉強会（月1回、有料）とオープン型の研修会（隔月、無料）の2本立てとし、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、研修会とオンラインを同時開催するハイブリッド方式の研修会を模索しています。

ただし、研修環境は変わっても、ならケアマネ支援ネットの理念は変わりせん。東川さんは、「困難事例を前にケアマネが責められ、バーンアウトする例も見てきました。そうならないために、ケアマネが力をつけるとともに、働きやすいネットワークづくりが必要。ケアマネが生き生きと仕事ができれば、きっと地域も元気になります」と今後の抱負を語ります。